

随 想



「イマジン」

2019年4月21日 虎長

4月18日の加藤先生による講演「日本の社会主義」で最も印象に残ったことは次の2点。

1. 「ラ・マルセイエーズ」から「インターナショナル」という革命歌を経て、今や市民運動の歌はジョン・レノンの「イマジン」というのが社会主義の歴史の流れ。
2. 第2次大戦後およびソ連崩壊後、西欧では社会主義・共産主義は社会民主主義へと戻る場があったが、日本では社会党、共産党に、そのような行き場がなく、社会主義の影が薄くなった。

1. 平和:

1901年結成の日本の社会民主党の原理の一つ「平和主義」は反戦というより、非武装・非戦であり、日本国憲法第9条に通じる思想であると今回知った。非武装を「非現実的」と難ずる人は多いが、非武装平和という先行形態として徳川幕府の国制という先行形態があり、夢ではない。カントの「永遠平和」は「国家の揚棄」が必要で、マルクスの「世界同時革命」も国家間の対立根絶のために必要。だがソ連は国家の強化と恐怖政治をもたらし、他国の革命運動を従属させるという逆方向に行ってしまった。日本が憲法第9条を実行することを「一国革命」として世界に示し、すべての国が非戦国となる「世界革命」を促す、という柄谷行人の考えに、僕は賛成する。

「イマジン」にいわく: Imagine there's no countries/It isn't hard to do/Nothing to kill or die for/And no religion too/Imagine all the people living life in peace

2. 西欧社会民主主義・西欧マルクス主義:

西欧の共産主義者が社会民主主義に戻り易かったのは、ルカーチやグラムシのようなネオ・マルクス主義の伝統があったから、またフランクフルト学派が資本主義社会の経済以外の矛盾に注目したからではなかろうか。エンゲルスの自然弁証法は、社会史には自然史に似た発展段階の必然性があるとしたが、ルカーチは「主体が持つ実践的可能性を奪い返す」ことを主張した。フランクフルト学派は資本主義には搾取と貧困を拡大する経済的強制力のみならず、変形・隠ぺい・吸収・抑圧により、その強制力を人間の意識から遠ざける能力があることに注目した。このような自己変革が社会主義には必要だろう。日本社会党が古い教条的マルクス・レーニン主義と縁を切ったのは漸く1986年。現在の日本共産党の政府批判は的を射たものが多いけれど、内部にある無謬性への固執と党の個人支配という旧体質の印象

は否めない。リベラル不在の現自民党の独走、特に安倍一強の暴走を許さないための抑制勢力としての社会主義政党の存在価値はある。他の野党と共に頑張ってほしい。本講演でも紹介された「軍の独走を止めるための1936年の宇垣政権による人民戦線の可能性」論を思い出そう。

「イマジン」にいわく: Imagine no possessions/I wonder if you can/No need for greed or hunger/A brotherhood of man/Imagine all the people sharing all the world

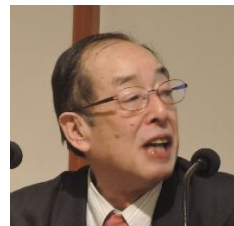
こんな共産社会あるいは共生社会を目指す、柔軟な社会主義運動あるいは市民運動はあってよい。実現した自称「社会主義国」の実態とイメージが悪すぎて、今日本で「社会主義はダサイ」と一般に思われているため、反保守には「リベラル」という言葉が使われるが、米国民民主党のサンダースは社会主義者を自称、英国労働党・党首は最左翼のコービン(伊東光晴先生によればフェビアン主義者)である。人道主義から発した初期社会主義を見直し、その理想を再検討する価値はあるだろう。

3. 結び:

上記の考えを「現実離れの空想」というなかれ。「イマジン」にいわく: You may say I'm a dreamer/But I'm not the only one/I hope someday you'll join us/And the world will be as one

以上

会場風景



茶話会





書 架

メルケル著『わたしの信仰』

—キリスト者として行動する

(新教出版社 2018年11月)

松井 和明(39)

本書は、アンゲラ・メルケルによるスピーチ集である。西ドイツ・ハンブルクに生まれ、牧師であった父親の転任により東ドイツ・ライプチヒで育つ。成績優秀なメルケルは、大学で物理学を学び、科学アカデミーに就職するが、ベルリンの壁崩壊という歴史的事件を経て、西ドイツ与党・CDUに加入、90年東西再統一されたドイツ連邦共和国の連邦議員となり、コール内閣において、91年婦人・青年担当大臣に、その後、環境大臣を務め、CDU党首となり、05年ドイツ史上最初の女性首相となる。メルケルが牧師の娘であることは知られているが、政治家としても聖書をよく研究し、キリスト教的立場に立ち、誠実に施政にあたってきている。それに比べ、少子化・財政危機など国家の重大問題を放置し、目先の利害に終始するポピュリズム政治が続く我が国との差を改めて痛感させられる。以下にメルケルの珠玉の言葉を紹介する。

政治家としての信仰 メルケルが何を考えながら政権運営をしているのか、信仰を通して人間メルケルの在り方も見えてくる。キリスト教的人間観に基づき、人の尊厳を守り、責任を全うしようとする姿勢。生真面目さ、誠実さが際立っている。わたしを導く行動基準は「信仰と希望と愛」の三つと。「何が良いのか、何が神から求められているか、分からないときは、人々の体験や自分が正しいと思ったことを改めて疑い、自分勝手にならないようにしている」、「一番弱い人たちに対して不正が行われるべきではない。将来において彼らを念頭に置き続けるべき。

基本法(憲法)とキリスト教 国家の役割は独立した自由な教会生活、宗教活動の保証にあるとし、基本法前文「神と人の前で責任を意識して」を引き合いの上、メルケルは「どんな社会にも基本的価値観や規範という基礎が必要、わたしたちのところでは、本質的にキリスト教に根付いている」。基本法第1条は「人間の尊厳は不可侵である」と規定。聖書もキリスト教的人間像を「人間は神によって創られ、自由に生きるべく召されている」。基本法4条は「信仰と良心と信仰告白の自由を保護し妨害を受けない信仰実践を保証している」と国家に宗教的な世界観の中立性を課している。

信仰と一般社会の関係 キリスト教信仰の安心できるのは全員が同じ結果を期待されていないこと。「神がわたしたちを違う人間に創られたのだから・・・違う答えとなる」。人間の尊厳、その共通の価値、とりわけ信仰教育を重視。それは「純粋な知識の伝達を超える良心の教育、心の教育である」。また、「子供たちに何を残し、未来を犠牲にして何を消費するかは、わたしたちにかかっている」、「持続可能性が重要」と。次世代の繁栄にも配慮、資源

の使い方や環境保全を提言。グローバル化、デジタル化の流れの中で落ちこぼれる人が出ないように気を配り、人口変動と高齢化の波にも対処する。

社会的市場経済 「個人のイニシアティブと社会的な責任、利益を上げる努力と共同体への貢献、私企業という形態と国家の管理を結びつける経済秩序、社会秩序」。「経済の自由と国家の管理とのバランスが社会的市場経済の核を形成。このバランスは多くの政治的取り組みの核をなす」。「経済成長は繁栄のためには不可欠」、「人間らしい生活にとり大切な基盤」。量的・質的に優れた成長とは「家族、友人、健康、清潔な環境、良い目的に参加できる、物質的観点を超越幸福で満たされた人生、物質以上のもの」。かくして社会的市場経済は福祉を行き渡らせ無借金財政を確保している。

キリスト教のヨーロッパ世界 「ヨーロッパ人としてのidentityは、大部分キリスト教的である」。「神の似姿として人間を理解するキリスト教は、国籍・言語、文化、宗教、肌の色、性別などによらず、あらゆる人間の平等を教える。政治の基準は国家・政党・人種・階級でもない。国家活動の中心は人間とその不可侵の尊厳である」。自由に関するキリスト教的精神が全体主義の歪みに抵抗し、共産主義の独裁権力を空洞化する力を人々に与えた。社会的市場経済の原則と組み合わせられた民主主義、法治国家、そして言論の自由というヨーロッパ・モデルは繰り返し強められていくべき価値を持つ。

難民危機とキリスト教 基本法は「政治的迫害を受けた人々には庇護を求める権利がある」と規定。1953年以来、370万人の難民に法に基づく手続きが与えられた。現在の難民危機に際して、ドイツは16年だけで6億ユーロをシリアと周辺国の国連食糧支援機構に拠出。同様に、難民を沢山ドイツに受け入れた。シリア難民について、シリアの隣人たちの受入状況を見ると、人口5百万人足らずのレバノンが150万人の難民を受け入れ、7千万人のトルコが270万人を受け入れている。「人口5億人のヨーロッパがシリア難民を百万人未満しか受け入れていないのはささやかな数字に思う」と。

以上

お知らせ

特別講話会 (第6回)6月3日 12:00-15:00

『戦後の宰相論— 戦後保守政治を顧みる —』

浅野純次氏 元東洋経済新報社社長

政治経済評論家

3F 富士の間

戦後の保守政治を担ってきた宰相たちは、現在、我が国が直面する、安全保障、人口減少、経済の低成長、巨額の国家債務などの難問にどう対応するのであろうか。講師は、50年以上、石橋湛山の衣鉢を汲む東洋経済新報社にあって、我が国の政治、経済を観察してきた。